

日本女子サッカーの本質を探る  
～未来のなでしこ育成の提言～  
Investigation of the essence of Japanese women's football  
～The proposal of Nadeshiko advance of the future～

1K09A224  
指導教員 主査 太田 章先生

八木 彩香  
副査 礒 繁雄先生

【目的】

2011 年ドイツワールドカップにおいて日本女子サッカー代表、通称「なでしこジャパン」は優勝した。さらに、2012 年ロンドンオリンピックで準優勝と世界に強さを見せつけた。世界一になったことをきっかけに空前の「なでしこフィーバー」が巻き起こった。世間に注目され、華やかになったような女子サッカー界だが、まだ環境がいいとは言え切れずに問題は山積みである。なでしこジャパンの優勝により起こった、なでしこブームを表面的なものだけで終わらせないためにはどのような活動が必要か。日本女子サッカーの歴史、現状の問題点を明らかにし、将来もなでしこジャパンが世界のトップに立ち続けるための展望を考える。

【方法】

女子サッカーの更なる発展のためにデータ収集を行った。日本女子サッカーの歴史、なでしこリーグの現状、学生世代の環境・進路・実力などを明らかにするため、それぞれで調査を実施した。

【結果】

1979 年にJFAの管轄下に置かれた女子サッカーは急速な発展を遂げた。しかし、日本代表がオリンピックで不甲斐ない結果を出したと同時に、バブル崩壊の影響を受け、企業からの支援が一気に減った。これまで企業広告のために運営してきたことにより、地元住民や自治体の支援を受けることができずにあっけなく衰退していった。2002 年日韓ワールドカップでサッカー人気は再熱した。さらにJFA10 代目会長の川淵三郎を中心に女子サッカー発展のために力をいれていった。これを機に女子サッカーは徐々に知名度をあげ、発展していった。発展の土台となる地域貢献活動などを疎かにして衰退していった過去を活かして、今後の女子サッカー界は根強いサポートを受けられるように土台をつくるべきである。

現在のなでしこリーグはほとんどがアマチュア選手である。リーグは戦績から見ても明らかなチームごとに実力差がある。平均観客入場者数は約 3 倍になるなど、盛り上がりを見せているなでしこリーグだが、下位チームの観客入場者数はマイナス成長になっていた。上位チームは注目され、更なる良い待遇を受けられるようになるが下位チームはそうはいかない。このままでは環境面でも大きな差がついてしまい、さらに実力差が広がってしまうことが考えられる。

学生世代の中にも優秀な選手はたくさんいる。なでしこリ

ーグのチームが学生チームに敗れることもあり、実力は確かである。学生世代の選手には進路という問題がある。地域によっては勉強とサッカーの両立は難しい。地方の大学にはサッカーを続ける環境が少なく、県によっては 1 つも女子サッカー部がないところもある。また、現在のなでしこリーグでは十分な待遇はなく、将来のことを考えてサッカーを辞めて、就職を選ぶ選手もいる。将来の選択肢として高いレベルの中サッカーをやりたいと思わせるほどの環境や魅力が今のなでしこリーグにはないと考えられる。このような現状では日本女子サッカーのレベルアップ、更なる発展を進めるには限界がある。

JFAは以前から女子サッカーの人口増加、特に中学生年代の環境改善を目指している。問題としてサッカーを始めたいとしても受け皿が大幅に不足している。特に中学生年代では女子サッカー部がある中学校がわずか 625 校とかなり少ない。地域によっては女子サッカーが浸透していないため、続けたくても続けられないのが現状である。

【考察】

あっけなく衰退してしまった過去を活かし、表面的なフィーバーに喜ぶのではなく、次の世代に繋がる活動をすべきである。

私は今回の調査を通して、女子サッカーの地域差となでしこリーグのキャリア問題を主に改善すべきと考えた。

サッカーの根付いていない地域に普及させるにはなでしこジャパンが勝ち続けることが 1 番の方法である。また、各都道府県に受け皿として、全てのカテゴリーでサッカーができる環境を作るべきだ。そうすれば他の地域に選手が流れることを減らすことができる。この取り組みを進めることでなでしこリーグが将来、実力が拮抗したリーグになることが期待できる。

次になでしこリーグのキャリア問題についてである。女子サッカー選手のキャリア面の待遇はまだ整備されていない。Jリーグのようにキャリアサポートセンターを作るなど、女子サッカー協会全体でサポートできる環境を整えるべきである。進路問題でサッカーを諦める人を減らし、競技人口を増やし、国内全体のレベルアップを図らなくてはならない。

なでしこジャパンが世界のトップで戦い続けられるようにこれらの施策を進めていくべきだ。